

歴史人物を描いた文学作品 2

はじめに

「歴史人物を描いた文学作品」の第2回目は、鎌倉時代から戦国時代までの歴史人物 44 人
を描いた文学作品を紹介します。源頼朝から今川義元まで、作家の目を通した歴史人物を歴史
小説という形で再認識していただければと思います。

なお、ここで紹介しました歴史小説は、資料リストも含めその人物を描いた全作品を紹介し
ている訳ではなく、当館で選択させていただいた作品です。

[資料リスト](#)

1. 源頼朝 (みなもとのよりとも) 1147～1199 (久安3～正治元年)

鎌倉幕府の初代将軍です。文治元年(1185)平氏を滅亡させ、建久3年(1192)征夷大将軍になり
ました。山岡荘八、吉川英治、咲村観、三田誠広などが頼朝を描いています。

2. 源義経 (みなもとのよしつね) 1159～1189 (平治元年～文治5年)

平安後期の武将。幼名牛若。元暦元年(1184)源義仲を破り、翌文治元年(1185)には壇ノ浦の
海戦で平氏を全滅させました。しかし、兄頼朝の不興を蒙り対立したため、最終的に奥州の藤
原秀衡を頼りましたが、秀衡の死後頼朝の圧力に屈した秀衡の子の泰衡によって居所の衣川館
を襲撃され自害しました。司馬遼太郎著『義経』などの作品があります。

3. 弁慶 (べんけい) ?～1189 (?～文治5年)

鎌倉初期の僧で、号を武蔵坊といいます。仏道より武術に優れ、源義経に従い安宅関の難を
逃れ奥州平泉に到りましたが、藤原泰衡から攻撃され、矢を全身に受けて立ちながら死んだと
いいます。中津文彦著『闇の弁慶』などの作品があります。

4. 源(木曾)義仲 (みなもとのよしなか) 1154～1184 (久寿元年～元暦元年)

平安後期の武将。父源義賢が甥の源義平に殺された後、信濃国木曾で成長しました。治承4
年(1180)に以仁王の令旨を受けて平氏追討の兵を起こしました。俱利伽羅峠の夜戦で平氏の
大軍を破り、都落ちした平氏に代わり入洛しました。しかし、義仲を退けようとする後白河法皇
や貴族は源頼朝と手を結び、平氏追討を強要します。義仲は平氏に敗れ京都に帰還。のち源義
経・範頼に攻められ自刃しました。山田智彦著『木曾義仲』などの作品があります。

5. 北条政子 (ほうじょう まさこ) 1157～1225 (保元2年～嘉禄元年)

北条時政の娘、源頼朝の妻です。伊豆の流人であった頼朝と父の反対を押し切って結婚し、
源頼家・実朝の男子と2人の娘を産みました。頼朝の死後幕府の統一に努め執権政治への道を
開きました。永井路子著『北条政子』などの作品があります。

6. 源実朝 (みなもとのさねとも) 1192～1219年 (建久3年～承久元年)

鎌倉幕府の3代将軍で歌人です。幕府の実権は北条時政の子義時が握り、実朝は政治から逃
避し、和歌・管弦・蹴鞠に熱中したため御家人の不満を招きました。右大臣昇任の拝賀の時に、
鶴岡八幡宮別当である甥の公暁に殺されました。和歌は藤原定家から激賞され、「金槐和歌集」
など753首が現存しています。葉室隣著『実朝の首』などの作品があります。

7. 建礼門院右京大夫 (けんれいもんいん うきょうのだいぶ) 1157~? (保元2年~?)

平安後期から鎌倉前期の女流歌人。建礼門院に宮仕えして約4年、平資盛と交情を深め、資盛が壇ノ浦で亡くなった後法性寺に入りましたが40歳を越えて再出仕しました。文暦元年(1234)藤原定家から作品を求められました。「新勅撰集」などに採録されています。大原富枝著『建礼門院右京大夫』などの作品があります。

8. 北条時宗 (ほうじょう ときむね) 1251~1284 (建長3年~弘安7年)

鎌倉中期の武将。文永5年(1268)蒙古の国書が届くと、幕府は国書を朝廷に奏上し防備体制を固めました。同年3月時宗が執権になり、文永・弘安の役に対処しています。咲村観著『執権北条時宗』上・下などの作品があります。

9. 日蓮 (にちれん) 1222~1282 (貞応元年~弘安5年)

鎌倉中期の僧。日蓮宗の開祖。文応元年(1260)「立正安国論」を著し北条時頼に呈上しました。この中で内乱と外寇を予言して、浄土宗を非難したので伊豆に流されます。のち蒙古の国書が到来したため、予言が当たったとして再び「立正安国論」を幕府に呈上しましたが、佐渡に流されました。文永11年(1274)許されて鎌倉に行き、のち身延山に隠棲しました。山岡荘八著『日蓮』などの作品があります。

10. 親鸞 (しんらん) 1173~1262 (承安3年~弘長2年)

鎌倉前期の僧。浄土真宗の開祖。法然の門に入り専修念仏の道に帰依しました。元久元年(1204)法然の教団に弾圧があり、親鸞も連座して越後に流されました。建保2年(1214)に常陸国稲田付近に移住して約20年間居住しました。農民や下層武士などに布教し、主著「教行信証」の著作も始めました。絶対他力・悪人正機説を唱えた親鸞は、仏教界に大きな影響を与えました。丹羽文雄・吉川英治・津本陽・五木寛之などが親鸞を描いています。

11. 永平道元 (えいへい どうげん) 1200~1253 (正治2年~建長5年)

鎌倉中期の禅僧。日本における曹洞宗の開祖。貞応2年(1223)宋に渡り如浄から曹洞禅を学びました。安貞元年(1227)帰国し、寛元元年(1243)波多野氏の招きで越前に永平寺僧団を開設しました。門弟を教化しつつ「正法眼蔵」を執筆し、晩年は京都に居住しそこで没しました。立松和平著『道元』『道元禅師』などの作品があります。

12. 一遍 (いっぺん) 1239~1289 (延応元年~正応2年)

鎌倉時代の僧。時宗の開祖。初め延暦寺で天台宗、のち浄土教を修め大宰府に至りました。西山派の祖証空の弟子聖達に念仏の奥義を受け、のち伊予国で念仏修行3年にして文永10年(1273)念仏の奥義を習得しました。衆生済度のため諸国の霊場を参籠遊行し、建治元年(1275)一遍と称しました。畑山博著『一遍 癒しへの漂泊』などの作品があります。

13. 後深草院二条 (ごふかくさいんの にじょう) 1258~? (正嘉2年~?)

鎌倉後期の日記文学作者。後深草上皇の寵愛を得ましたが、西園寺実兼などとも交渉を持ちました。正応2年(1289)出家し諸国修行の旅に出ました。後深草上皇の死後、一代記「とはすがたり」を執筆しました。瀬戸内晴美著『中世炎上』などの作品があります。

14. 後醍醐天皇 (ごだいご てんのう) 1288~1339 (正応元年~延元4年・暦応2年)

鎌倉幕府を倒し建武の親政を成し遂げた天皇。在位文保2年~延元4年・暦応2年(1318-1339)。討幕を企て失敗し元弘2年・正慶元年(1332)隠岐に流されました。しかし、翌年反幕の機運が高まると隠岐を脱出し、幕府滅亡後京に戻り建武の新政を始めます。新政では記録所・雑訴決断所・武者所などを設置しましたが、恩賞の不公平や公家中心の政治のため、武士・農民の不

満が高まり花山院に幽閉されました。その後、脱出して吉野に赴き南朝をたてました。隆慶一郎著『花と火の帝』などの作品があります。

15. 懐良親王 (かねよし しんのう) 1329～1383 (元徳元年～弘和3年・永徳3年)

後醍醐天皇の皇子で、南北朝時代の延元元年・建武3年(1336)南朝方の征西大將軍に任命されました。興国3年・康永元年(1342)九州に上陸、肥後国に入り国主菊地氏・一宮大宮司阿蘇氏に支持されて官方を隆盛に招きました。のち九州探題今川氏が入部すると圧迫され筑後国の奥地で没しました。北方謙三著『武王の門』などの作品があります。

16. 足利尊氏 (あしかが たかうじ) 1305～1358 (嘉元3年～正平13・延文3年)

室町幕府の初代將軍。当初は鎌倉方でしたが、丹波国篠村八幡宮で叛旗をあげ六波羅探題を滅ぼしました。勲功として相模・伊豆国を与えられましたが、建武2年(1335)武家政権再興を志し、鎌倉に下り箱根で新田義貞を破り、京に戻りますが新田軍などに敗れて九州に下りました。のち勢力を挽回して兵庫湊川で楠木正成を破って再び入京しました。延元元年・建武3年(1336)室町幕府を開いて、延元3年・暦応元年(1338)に征夷大將軍となりました。以降、吉野の南朝と戦いを続けました。吉川英治・村上元三・杉本苑子・山岡荘八などが足利尊氏を描いています。

17. 新田義貞 (にった よしただ) 1301～1338 (正安3年～延元3年・暦応元年)

鎌倉末・南北朝期の武将。上野国新田荘を本拠とする豪族です。元弘3・正慶2年(1333)千早城攻めの途中で帰国し、その後上野・武蔵などの兵を集めて鎌倉に攻め込み北条氏を討伐しました。建武政権で重用されましたが足利尊氏と対立し、尊氏が建武政権に叛旗を翻すと、自身に従う一族をまとめて各地を転戦しました。のち越前に下向しましたが高師直らに攻められ戦死しました。新田次郎著『新田義貞』などの作品があります。

18. 楠木正成 (くすのき まさしげ) 1294～1336 (永仁2年～延元元年・建武3年)

南北朝時代の武将。河内国観心寺領の土豪。元弘元年・元徳3年(1331)後醍醐天皇に依じて赤坂城に挙兵しました。建武政権の樹立に功があり、雑訴決断所の奉行や天皇の身辺警護を務めています。延元元年・建武3年(1336)尊氏方の将兵と戦って勝利し尊氏を九州に敗走させました。同年尊氏の東上の際、兵庫湊川で足利直義と交戦中に、背後から細川定禅に攻撃され戦死しました。直木三十五・邦光史郎・北方謙三などが正成を描いています。

19. 赤松則村 (あかまつ のりむら) 1277～1350 (建治3年～正平5年・観応元年)

南北朝時代の武将。元弘2・正慶元年(1332)大塔宮の令旨を受けて挙兵し、翌年足利尊氏と共に六波羅探題を滅ぼしました。建武政権樹立の功で播磨守護になりますが、建武2年(1335)尊氏と共に建武政権に背き新田軍と戦いました。足利政権成立のために活躍して再び播磨守護になりました。北方謙三著『悪党の裔』などの作品があります。

20. 北畠親房 (きたばたけ ちかふさ) 1293～1354 (永仁元年～正平9年・文和3年)

南北朝時代の公卿、南朝の政治的・思想的な指導者です。宇多上皇に仕え、のち後醍醐天皇の信任を得て、その皇子世良親王の養育にあたりました。親王の早世で出家しましたが、建武の新政に際し政界に復帰し、嫡子の顕家が義良親王(後村上天皇)を奉じて陸奥に赴く際、同行しました。志茂田景樹著『南朝の日輪』などの作品があります。

21. 北畠顕家 (きたばたけ あきいえ) 1318～1338 (文保2年～延元3年・暦応元年)

南北朝時代の公卿・武将。義良親王(後村上天皇)を奉じて父親房とともに陸奥に赴きました。建武2年(1335)鎮守府將軍となり、新田義貞と共に足利尊氏に対抗し、翌年九州へと敗走

させました。尊氏が九州から東上する際には、鎌倉で足利義詮を破り、延元3・暦応元年(1338)高師直と和泉堺浦で戦い戦死しました。北方謙三著『破軍の星』などの作品があります。

22. 佐々木高氏・道誉(導誉)(ささき たかうじ・どうよ) 1296~1373(永仁4年~文中2年・応安6年) 南北朝時代の武将。初め北条高時に仕え、元弘の乱(鎌倉幕府討幕の乱)以降足利尊氏に従いました。室町幕府の創設や建武式目制定に関与して、近江・上総などの守護になりました。高師直に従い四条畷に楠木正行らを破っています。観応の擾乱(足利政権の内乱)には尊氏に従いました。北方謙三著『道誉なり』などの作品があります。

23. 足利義満(あしかが よしみつ) 1358~1408(正平13年・延文3年~応永15年) 室町幕府3代将軍。正平22・貞治6年(1367)10歳で家督を継ぎ、翌年将軍となりました。管領細川頼之の補佐を受け、天授4・永和4年(1378)京都室町に花の御所を建て始めます。元中9年・明德3年(1392)には南北朝合一を成し遂げました。応永4年(1397)には金閣寺を建てて北山殿といわれました。平岩弓枝著『獅子の座』などの作品があります。

24. 世阿弥(ぜあみ) 1363~1443(正平18年・貞治2年~嘉吉3年) 室町時代の能楽者・謡曲作者。本名は観世三郎元清。世阿弥は法号。文中3・応安7年(1374)父と共に京都今熊神社で足利義満の前において舞い認められました。その後義満の支援を得て猿楽(能)を室町時代の代表的な芸能へ押し上げました。但し、4代将軍義持・6代将軍義教には疎まれています。杉本苑子著『華の碑文』などの作品があります。

25. 蓮如(れんにょ) 1415~1499(応永22年~明応8年) 室町時代の浄土真宗の僧。本願寺第8世。幼くして当時不振であった本願寺教団を再興する志を立て、宗学を父から学んだ外は独学で学びました。文明3年(1471)越前国吉崎に坊舎を建て、教化活動を展開し広く民衆の支持を得ました。文明13年(1481)京都山科に本願寺を再興し、明応5年(1496)大坂石山に坊舎を建てました。皆川博子著『乱世玉響』などの作品があります。

26. 日野富子(ひの とみこ) 1440~1496(永享12年~明応5年) 室町幕府8代将軍足利義政の室。16歳の時義政の室となり女子2名を生みました。但し、男子がいないため、義政は弟義視を還俗させ後継者としました。しかし、その直後富子に義尚が生れたため富子は山名宗全を頼り、管領細川勝元が支持する義視と対立し、応仁の乱のきっかけとなりました。永井路子著『銀の館』などの作品があります。

27. 一休宗純(いつきゅう そうじゅん) 1394~1481(応永元年~文明13年) 室町前期の禅僧。後小松天皇の皇子といわれます。京都五山で修学し、近江堅田で華叟宗曇に師事して一休の号を授けられました。華叟没後京都に戻ると風狂の生活を送り、また、自ら狂雲子と称し奇矯な行動が目立ちました。こうした生活態度は、仏教の形式化・墮落に対する批判が根底にあったといわれます。川口松太郎著『一休さんの門』などの作品があります。

28. 太田道灌(おおた どうかん) 1432~1486(永享4年~文明18年) 室町後期の武将。上杉(扇谷)定正の執事を務め、古河公方足利成氏と対立する上杉氏を助けて戦いました。長祿元年(1457)江戸城を築いてこれに拠り、文明8年(1476)上杉(山内)顕定の家臣長尾景春の乱では、景春と戦って扇谷上杉氏の勢力を高めました。のち、扇谷・山内の両上杉氏の対立が激しくなると、道灌は顕定に謀られて定正の家臣に殺されました。童門冬二著『小説太田道灌』などの作品で道灌が描かれています。

29. 齋藤道三 (さいとう どうさん) 1494~1556 (明応3年~弘治2年)

戦国時代の大名。はじめ油商人。美濃守護土岐頼芸に仕え、その家臣長井氏の家老西村家を継ぎます。次いで長井家の跡を継ぎ、天文7年(1538)守護代齋藤氏を継いで、稲葉山城に拠りました。さらに、天文11年(1542)頼芸を放逐して美濃一国を奪いました。以後尾張の織田信秀と争いました。弘治2年(1556)に長男の義龍と戦い長良川で敗死しました。司馬遼太郎著『国盗り物語』などの作品で道三が描かれています。

30. 北条早雲 (ほうじょう そううん) 1432~1519 (永享4年~永正16年)

室町後期の武将。妹が今川義忠の室となり氏親を生みます。文明8年(1476)義忠の戦死後に氏親を立てて駿河国興国寺城主になりました。延徳3年(1491)伊豆堀越公方家の内紛に乗じて足利茶々丸を殺し、韮山城を築いて伊豆国を掌握します。のち、相模に進出して永正9年(1512)上杉氏の重臣三浦義同を岡崎城から追い、鎌倉を手にして玉縄城を築きました。永正13年(1516)新井城の三浦義同を滅ぼして相模一国を制圧しました。早乙女貢著『北条早雲』1~4などの作品で早雲が描かれています。

31. 山中鹿之介 (助) 【幸盛】 (やまなか しかのすけ・ゆきもり) 1545?~1578 (天文14年?~天正6年)

戦国・安土桃山時代の武将。尼子氏に仕え永禄9年(1566)尼子義久が毛利氏に降伏すると浪人しました。しかし、永禄12年(1569)尼子勝久を擁して隠岐に挙兵し、一時尼子氏の旧領出雲を回復しました。のち秀吉の中国平定戦に従い、秀吉から播磨上月城の守備を命じられましたが、吉川元春の攻撃を受けて降伏し勝久は自殺、鹿之介(幸盛)は降伏後殺されました。池波正太郎・童門冬二などが山中鹿之介を描いています。

32. 毛利元就 (もうり もとなり) 1497~1571 (明応6年~元龜2年)

戦国時代の武将。大永3年(1523)家督を継ぎ、大永5年(1525)頃から大内氏に属しました。次男元春を吉川氏、3男隆景を小早川氏の養子にして安芸国を支配しました。天文21年(1551)大内義隆の家臣陶晴賢が叛旗を上げて義隆を殺し、大友義鎮の弟を迎えて大内義長に据えると、元就は厳島で晴賢と戦い勝利しました。弘治3年(1557)には義長も滅ぼして長門・周防両国を平定しました。以降、備後・備中・石見などに進出し、出雲の尼子氏も討滅して中国地方10か国を支配する大名となりました。山岡荘八著『毛利元就』などの作品があります。

33. 武田信玄 (たけだ しんげん) 1521~1573 (大永元年~天正元年)

戦国時代の大名。天文10年(1541)父晴信を追放して独立。翌年(1542)諏訪を、天文14年(1545)伊那を支配しました。天文20年(1551)筑摩郡の小笠原長時を、天文22年(1553)埴科郡の村上義清を越後に敗走させています。以降上杉謙信と川中島で5度戦い北信濃を制圧しました。永禄3年(1560)今川義元の敗死後は駿河にも進出しました。元龜2年(1571)北条氏政と和議を結び、翌年反織田信長勢力と結び大軍を西上させました。遠江国三方が原で徳川家康を破りましたが三河国野田城攻囲中に発病。天正元年(1573)帰国途中で死亡しました。新田次郎著『武田信玄』などの作品があります。

34. 山本勘助 (やまもと かんすけ) ?~1561? (?~永禄4年?)

戦国時代の武将。武田信玄に仕えた兵法家で、川中島合戦で討ち死にと伝わります。武田氏の武将山県昌景の部下との説もありますが詳細は不詳です。南原幹雄著『謀将山本勘助』などの作品があります。

35. 上杉謙信 (うえずぎ けんしん) 1530~1578 (享禄3年~天正6年)

戦国時代の武将。越後の守護代である長尾為景の子。天文17年(1548)家督を継ぎ、春日山城に入りました。天文21年(1552)から上杉憲政援助のため関東に出兵し北条氏康と対抗しま

した。翌年謙信を頼った信濃国の村上義清の旧領回復を名目に、武田信玄と川中島で対戦しました。永禄4年(1561)には鎌倉鶴岡八幡宮で、上杉憲政より関東管領職と上杉の名跡を得ています。永禄12年(1569)信玄が駿河に侵入すると北条氏と和睦しました。天正元年(1573)信玄が亡くなると越中・能登・加賀に進出し、足利義昭に応じて毛利氏と結び織田信長と対立しましたが、天正6年(1578)に亡くなりました。吉川英治著『上杉謙信』などの作品があります。

36. 三好長慶 (みよし ながよし) 1522～1564 (大永2年～永禄7年)

戦国時代の武将。天文元年(1532)家督を継ぎ、管領細川晴元に執事として仕えました。天文18年(1549)同族の三好政長を滅ぼし、晴元と12代将軍足利義晴を京都から追放して入京しました。天文21年(1552)13代将軍足利義輝を迎え管領細川氏綱に代わって実権を握ります。山城・摂津など8か国を支配しますが、その後家宰の松永久秀の勢力が増大して実権を失いました。徳永真一郎著『妖雲』などの作品があります。

37. 松永久秀 (まつなが ひさひで) 1510～1577 (永正7年～天正5年)

戦国時代の武将。下剋上の代表的人物です。三好長慶に仕え天文年間(1532～1554)には主家をも凌ぐ権勢を得ました。大和の信貴山に城を築き長慶の娘を娶り、長慶の勢力を奪おうと永禄6年(1563)長慶の嫡子義興を毒殺しました。永禄8年(1565)三好三人衆とともに将軍義輝を襲い自害させました。永禄10年(1567)三好三人衆・筒井順慶と戦い、東大寺大仏殿を焼いています。翌年織田信長が足利義昭を擁して入京すると信長に降伏しますが、天正5年(1577)信長に背いて信貴山城に入り、織田信忠に攻められ自刃しました。早乙女貢著『悪霊』などの作品があります。

38. 長宗我部元親 (ちょうそかべ もとちか) 1539～1599 (天文8年～慶長4年)

安土桃山時代の武将。永禄3年(1560)家督を継ぎ、土佐の諸豪族を滅ぼして天正3年(1575)土佐国を統一しました。天正13年(1585)には四国全体を統一しています。しかし、同年豊臣秀吉の四国出兵で征討軍に敗れて降伏、土佐一国のみの領有を許されました。文禄元年(1592)に文禄の役で渡海し朝鮮各地を転戦、慶長2年(1597)の再出兵の際も従いました。司馬遼太郎著『夏草の賦』などの作品があります。

39. 佐竹義宣 (さたけ よしのぶ) 1570～1633 (元亀元年～寛永10年)

安土桃山・江戸前期の武将。天正17年(1589)家督を継ぎ、翌年の小田原城攻撃で功績がありました。領地は文禄3年(1594)の検地で常陸・陸奥・下野など54万石でした。慶長5年(1600)関ヶ原の戦いでは徳川家康の出陣要請に従わなかったため、出羽国20万5千石余に減転封されました。南原幹雄著『名将佐竹義宣』などの作品があります。

40. 浅井長政 (あさい ながまさ) 1545～1573 (天文14年～天正元年)

戦国時代の武将。近江国小谷城主。永禄11年(1568)織田信長と結んで六角義賢を追い、近江の大半を領しました。のち信長が将軍足利義昭を奉じて越前の朝倉義景と対立すると、義景側に立ち元亀元年(1570)近江国姉川で信長・徳川家康と戦って敗れました。天正元年(1573)信長が義景を滅ぼし、続いて長政も羽柴秀吉に攻められ小谷城で敗死しました。笹沢左保著『華麗なる地平線』などの作品があります。

41. お市の方・小谷方 (おいちのかた・おだにのかた) 1547～1583 (天文16年～天正11年)

浅井長政・柴田勝家の妻で、信長の妹です。名はお市方。兄信長の命で永禄6年(1563)浅井長政に嫁ぎ、2男3女(淀殿・京極高次の室常高院・徳川秀忠の室崇源院)を生みました。天正元年(1573)長政敗死の際、信長に引き取られました。のち天正10年(1582)3女を連れて柴田勝家に嫁ぎましたが、翌年勝家は秀吉に攻められ3女を逃したのち勝家と共に自刃しました。

永井路子著『流星』などの作品があります。

42. 足利義昭（あしかが よしあき） 1537～1597（天文6年～慶長2年）

足利幕府15代将軍。幼時に奈良興福寺の一乗院に入り覚慶と号しました。永禄8年(1565)将軍足利義輝が松永久秀らに殺された時近江に逃れ、翌年還俗して義秋と称しました。永禄10年(1567)越前の朝倉義景を頼り、翌永禄11年(1568)元服して義昭と改名しています。同年7月織田信長に迎えられ9月に入京、10月征夷大将軍になりました。のち信長と不和になり、反信長勢力を糾合して天正元年(1573)1月京都で挙兵しましたが敗れました。同年再び挙兵しましたが敗れて河内国若江に移され、全ての官位をはく奪されて室町幕府は滅亡しました。水上勉著『足利義昭』などの作品があります。

43. 北条氏康（ほうじょう うじやす） 1515～1571（永正12年～元亀2年）

戦国時代の武将。北条氏綱の長男。天文10年(1541)家督を継ぐ。天文15年(1546)上杉(山内)憲政・上杉(扇谷)朝定・古河公方足利晴氏連合の河越城包囲軍を破り、上杉(扇谷)家を滅亡させました。天文21年(1552)憲政を越後に追い、天文23年(1554)晴氏を相模に移して、古河公方を傀儡として関東の覇権を握ります。弘治2年(1556)婚姻をもって武田・今川氏と和し、関東進攻をはかる上杉氏に対抗しました。永禄3年(1560)家督を子の氏政に譲っています。永岡慶之助著『北条氏康』などの作品があります。

44. 今川義元（いまがわ よしもと） 1519～1560（永正16年～永禄3年）

戦国時代の武将。今川氏親の3男。はじめ僧として駿河国善徳寺に入りました。天文6年(1537)兄と家督を争い勝った義元が還俗して家を継ぎました。その後三河に攻め入り勢力を拡大しました。天文23年(1554)その隙を突き北条氏康が駿河国に侵入したため氏康と戦います。のち善徳寺で義元・信玄・氏康が三者会盟して和睦しました。駿河・遠江・三河を支配して永禄3年(1560)織田信長を倒して京に向かう途中、尾張国桶狭間で信長の急襲を受け敗死しました。義元などを描いた皆川博子著『戦国幻野』や、義元の母の寿桂尼を描いた永井路子著『姫の戦国』などの作品があります。

【参考文献】

『コンサイス日本人名事典』第4版 三省堂 平成16年

